国登録有形文化財秋元家住宅土蔵保存修復工事見学会

令和7年1月11日（土）

屋根瓦修理前の状況

屋根の中央が凹んでいる。

瓦がずれたり、割れている。

影盛が割れて、雨漏りの原因に。

復元できるように番号をつけます。

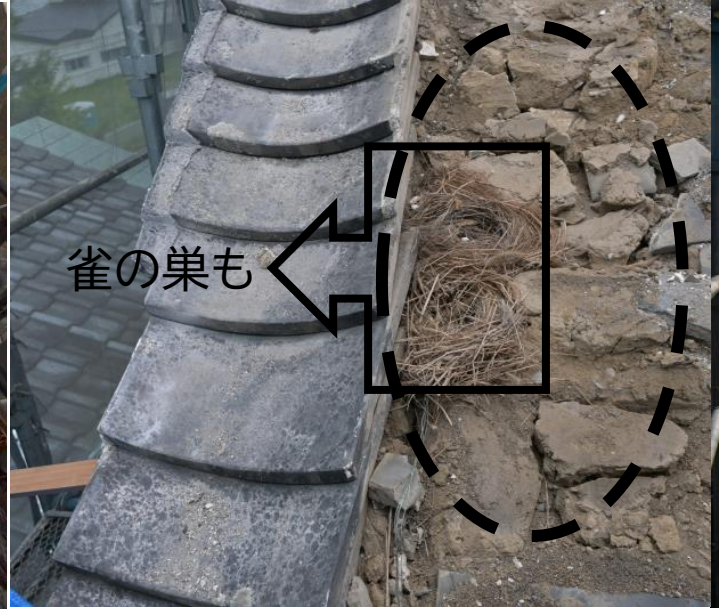
1枚ずつ丁寧に取り外していきます。

文化財の修理は、修理前と修理後の状況が同じであることが基本です。
このため、解体をする際にも、建物がどのような構造であったかを調べながら進めていきます。

屋根瓦解体

棟は、瓦と土が交互に積まれていた。

影盛は瓦と漆喰でつくられていた。



瓦の下には、土が積まれていたが、劣化でブロック状になっていた。

土居塗という漆喰の層。ひび割れと陥没が確認でき、瓦がずれた原因に。

土居塗の下は、土の層。土を除去すると杉皮をおさえる竹を確認。これも劣化が進む。

杉皮の層。土を除去すると乾燥が進み、どんどん劣化が進んでしまった。

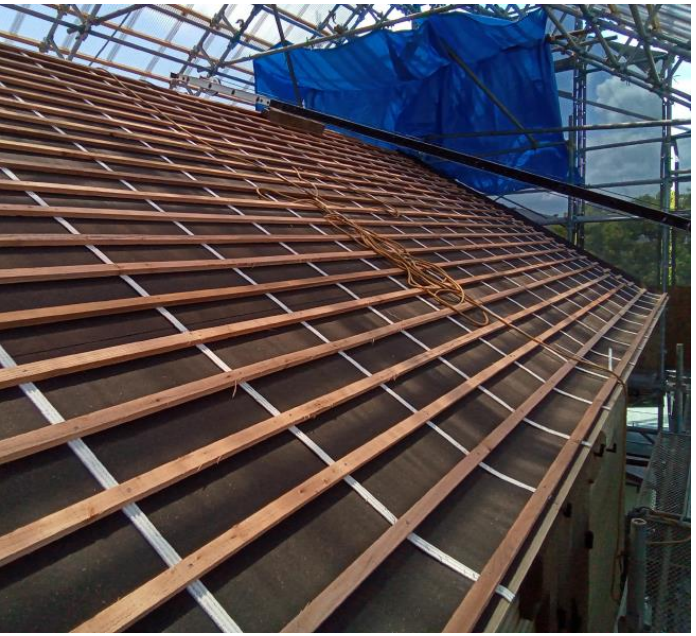
すべてを除去し確認できた野地板（のじいた）。板の一部も腐朽していた。

屋根瓦の復元

腐朽していた野地板を新しい材と交換する。

耐震性を考慮し、土葺きから板葺きに変更する。
厚みは同じにして復元。

屋根の形状は元と同じにしている。新しい木材には、修理年がわかる焼印した。



地震を考慮し、瓦を釘止めするための
板材を用意した。

瓦の８割は新しいものに。色の違いで新旧の瓦が
わかります。

既存の瓦は、古い瓦との調整が必要であったため、
■部分を削る作業をしています。。

屋根瓦の復元

鬼瓦・影盛（かげもり）と花深（はなぶか）の復元作業。北側の鬼瓦は、新しいもので復元した。

ケラバの復元作業。漆喰で四角い区画をつくり、中の区画まで仕上げる。

屋根瓦の復元作業完了。

壁の修理（解体作業）

修理前。1階部分はトタンで壁を押さえている状態。白の塗装も一部剥げている。
当初計画では、トタンを外して、壁の塗り替えの予定であった。

鉢巻の壁を外すと、板材を確認。過去の修理で土壁ではなく、板材で壁厚を確保していたことがわかった。

２階部分の壁を外すと、板材を確認。鉢巻と同じで、土壁ではなく、板材で壁厚を確保していたことがわかった。

解体の工程

モルタル壁

モルタル壁を除去し、中塗り層を確認

壁の劣化が激しいため除去

漆喰で塗られた大津締め層
随所にひび割れや剥がれが確認できる。

荒壁土の層
土が劣化しており、ぼそぼその状態であった。

荒壁土の層
土が劣化しており、ぼそぼその状態であった。

30cmの土壁はすべて取り外され、
柱だけの状態になった。

柱の補修

土壁を取り除いたところ、梁の一部が
腐朽していることがわかりました。

梁の交換するため、屋根板と大きい
梁をすべて取り外しました。

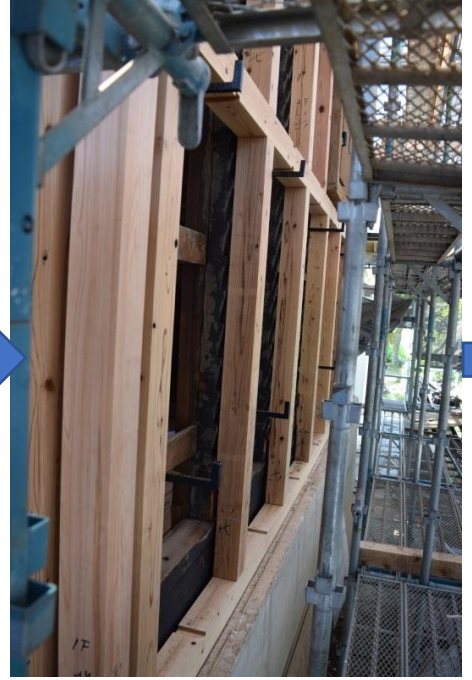
梁を新しい材に取り替えました。

大きな梁も腐朽していることがわかり、
急遽、点線部分を交換することになり
ました。

梁を新しい材に取り替えました。
もちろん釘は使っていません。

梁先の譜去っていた部分を新しい材に
取り替えました。

壁の修復



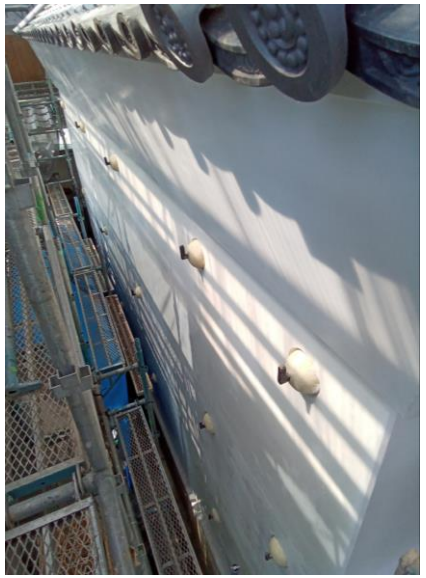
既存の柱の外側に新しい柱を立てます。土壁の厚さ（30cmのうち20cm分）の大半を柱にすることにしました。

土が張り付くように横板を設置

以前と同じく、荒縄を貼り付け、その上から土を塗って行きます。

壁の内側の様子

土を何度も塗り重ねていきます。



最後に漆喰を塗り完成です。

扉の修復・ツブの復元

扉の漆喰部分をはがし、土も傷んでいる部分ははがし、修理することにしました。

現在、扉の復元作業を進めています。デリケートな作業のため、ベテランの職人さんが専従しています。

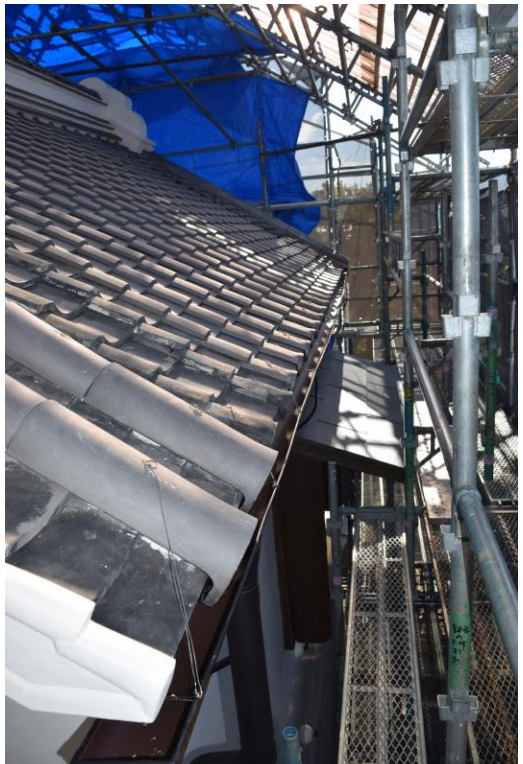
土蔵でみられる、折釘とツブ。解体作業では、その構造も調査しました。

確認した構造をもとに、折釘は錆止めの塗装をして、土と漆喰で仕上げています。

扉・下屋根・雨どいの復元

扉は、土の補充（粗塗り・中塗り）を行ったうえで、白漆喰次に黒漆喰を塗り重ねていきました。扉の修理はベテランの職人さんが専従して約2月かかって完成しました。

扉が完成すると扉うえにあった下屋根の復元作業を行いました。一部新しい木材を使用していますが、修理前の状態に復元しました。



最後に雨どいの復元作業です。縦樋を支える釘を土壁に打つことができないため、ツブを利用した特別な支えを作っています。